

B-9					
主題		支援困難な状況から発想を転換する			
副題		その人のストレングスを引き出す支援			
キーワード 1	発想の転換	キーワード 2	ストレングス	研究(実践)期間	6か月
法人名・事業所名		社福) 同胞互助会 南部地域包括支援センター愛全園			
発表者(職種)		和田光弘(主任介護支援専門員)、原田律二(主任介護支援専門員)			
共同研究(実践)者					
電話	042-513-7651	FAX	042-513-7652		
事業所紹介	<p>社会福祉法人同胞互助会を母体とした包括支援センターと居宅介護支援事業所です。包括は、市内2カ所の管轄を行政からの委託を受けて運営しており、そのうちの 하나가南部包括で、居宅事業所と同じ事務所で運営され、法人に併設されています。</p>				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>地区担当とは別の民生委員から独居で心配な方がいると相談あり。事情を伺うと近隣の方々からの報告では、本人の後ろを歩いた際、強烈な臭いがしたこと、失禁したズボンで歩いていたことなどあり。早速包括で訪問したところ、情報の通り、しばらく入浴されていない臭いと服の状態が伺えた。自宅前で話をすることは可能であったが、ご自宅の中に入ることは本人の意向でどうしてもできなかった。玄関からは、物が雑然と置いてあり、よく見ると飲食物もあり、腐敗臭も漂っていた。実子はいなく、隣に親戚が住んでいたため、話を伺うと、親戚の言うことは聞いてもらえないとのことで、本人のことを心配して困っている状況であった。あの手この手で介入を試みるも、本人が困っていない事、支援を望んでいないことから、今後の更なる状況の悪化を皆が心配していた。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>本人と話をするとう物忘れや同じ話の繰り返し、汚れた服を着ている状況から判断能力に何かしらの影響が生じ、このような状況になっていると感じた。本人からは、困っていることは特になく、家でこのまま暮らすことが当然だと話していた。通常だとセルフネグレクトとして対応することもあるが、解決には時間がかかる事、本人との関係性が悪化して更に状況が悪くなることも考えられたため、法人で学んだFKモデルでの事例検討を行い、ストレングス支援を試みたら改善するのではないか、試していくこととした。これまでも、支援が行き詰った際には活用するようにしている。このFKモデルの事例検討方式とは、簡単に言えば、本人を取り巻く状況の課題を出し、その課題の言い換え(リフレイミング)をすることで、新たな視点が見えてくるというものである。当法人の理事にFKモデルを提案した福山和女先生が就任しており、定期的に相談員向けの研修を実施している。</p>					

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

支援するにあたっての大きな課題として、『独居・支援者がいない・介入拒否』があったため、これを、『家がある・一人で生活できる・自分の意思がある』と言い換えることで、本人のストレングスとなり、在宅生活をできるように支援が可能なのではと思うようになった。また、本人は過去に当法人のボランティアをしていたことから、自宅に入れなければ、こちらに来て話をすることを提案すると、すんなり受け入れてくれた。来所した際、その当時の職員と話をすることで、少しずつ昔のことを思い出していった。

### 《4. 取り組みの結果》

最初は支援困難事例として、八方ふさがりの状況ではあったが、支援者が発想の転換をすることで、本人の捉え方が変わり、その結果、支援の方向性も変化していく事に気付いた。本人は現在、デイサービスでの入浴、送り出し支援と掃除のためのヘルパー、食事の確保に配食サービス、ICTを活用して主治医とも連携し、受診支援にケアマネが担当し、それぞれ対応している。包括が初めて訪問してから、3か月後に多職種でかかわるようになり、それからサービスを利用したことで、ご本人が以前のように明るく、お洒落な姿でデイに通われたり、当法人まで一人で歩いてきてお話ししたりと、元気な姿になった。

### 《5. 考察、まとめ》

これまで、何度か支援に行き詰った時には、FKモデルを活用して発想の転換をしてきており、その度、支援者の新たな発見や気付く視点がみられていたことから、支援困難事例こそFKモデルの事例検討が必要と感じた。もちろん、物忘れや同じ話がなくなったわけではないが、症状がみられながらも、お洒落で明るく本人らしい生活で、かつ衛生面でも安心して過ごすことができている。近隣や親戚の方も以前は心配したが、今では相談体制が整い、衛生面も確保され、安心されている。包括だけでは支援が滞っていたケースを色々な職種が関わってくれたことで、本人らしさを取り戻せたケースと感じた。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

### 《7. 参考文献》

ソーシャルワークのスーパービジョン～人の理解の探求～

### 《8. 提案と発信》

支援困難事例の一つの進め方として、FKモデル方式を広く周知できるように、包括やケアマネの研修に取り入れてもらえるとよいのではないかと。また、ケアマネの運営基準には一定の事業所に80%を超えて紹介すると減算になるが、今回のように法人で連携することで、本人らしさを取り戻せることもあるので、一律ではなく特段の事情があることも、考慮に入れてほしい。